

トピックス 原子力災害からの復興

福島県では、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故から14年が経過する中、森林・林業の分野でも地域に雇用を取り戻し、福島県の木材を日本中で使っ

てもらい、福島の森林・林業を再生するためのチャレンジが続けられています。

コナラ等の広葉樹活用の挑戦

震災前、福島県のコナラを中心とした広葉樹材は、しいたけ原木として全国一の出荷量を誇っており、原木を伐採・更新することで森林の手入れが進められていました。しかし、原発事故の影響で利用ができなくなり、森林の手入れが行き届かない状況にあります。

このため、「里山・広葉樹林再生プロジェクト」により、それらの広葉樹林の計画的な伐採・更新を進めるとともに、コナラ等の利用拡大に向けて取組を進めています。しいたけ原木としての伐採時期を過ぎたコナラ材は、建築、家具材へと用途を広げられる可能性があり、丸太の太さ（径級）に応じた利活用方法の検討が必要です。

福島県林業研究センターでは、しいたけ原木に利用できない径級のコナラ材につ



●伐採された広葉樹材

いて、家具や建具として利用するため新たな製品開発に取り組んでいます。福島県郡山地区木材木工工業団地協同組合等と連携して「集成フリー板（※）」を試作し、各工程における歩留りや乾燥手法、強度性能等の検証を行っています。



●試作された集成フリー板

※集成フリー板：木片を幅方向や長さ方向に接着して作られた集成材の板。必要な幅や長さに合わせてカットして利用するため、様々な樹種の製品があり、ホームセンター等でも販売されています。

福島県産木材で大断面集成材を一貫生産 最先端設備の木材加工工場稼働

震災と原発事故で失われた福島県浜通り地域等の産業を回復させ、世界のイノベーションの中枢にすべく、「福島イノベーション・コースト構想」が進んでいます。

2021年、浪江町に国内最大級の「福島高

度集成材製造センター（FLAM〈エフラム〉）」が完成しました。浪江町は、元々林業が盛んでしたが、原発事故後に林業会社の多くが廃業してしまいました。FLAMでは、福島県産木材を最先端の設備で加工し、中

大規模建築物などに使われる中断面・大断面集成材を量産することができます。EXPO2025大阪・関西万博のシンボル「大屋根リング」用の集成材も手がけて、世界中の人々に福島の木材の良さと安全性を知ってもらえることになりました。



●福島高度集成材製造センター（FLAM）全景



●高出力高周波プレスによる積層接着



●万博の大屋根リング用に出荷される集成材

福島県産木材で建てられた大規模木造建築物

中断面・大断面集成材によって、大規模な木造建築物をつくれるようになりました。今、SDGsへの関心が高まるなか、木造の高層ビルや学校教育施設等を建設することで二酸化炭素を街に貯蔵・固定できます。また伐採後の山では植林により新たな二酸化炭素の吸収源ができると注目されています。福島県産の木材で建てられた大規模な木造建築物を紹介します。



●浦尻貝塚縄文の丘公園ガイダンス棟（福島県南相馬市）



●あぶくま信用金庫本店営業部（福島県南相馬市）



●福島市立渡利中学校屋内運動場



●認定こども園ときがね幼稚園（千葉県東金市）